

平成30年度 長崎市提案型協働事業1次審査結果一覧

種別		行政提案型	市民提案型	市民提案型	市民提案型	
団体名		DEJIMA BASE	モッシュュ Moshyw (もうセクハラを許さない女たちの会・ながさき)	とらねこ文庫	NPO法人ながさきエコネット	
事業名		出島表門橋公園の賑わい創出に向けた 社会実験実施事業	スクール・セクハラ防止啓発事業	絵本で子育て応援“おひざで絵本”事業	茂木南部地区における市民も参加できる 営農環境の保全事業	
事業費総額(円)		1,100,000円	838,000円	991,900円	890,500円	
審査項目	配点	評価点(点)	評価点(点)	評価点(点)	評価点(点)	
①	目的の明確性	5	4.0	4.3	4.0	3.8
②	課題の把握	5	4.0	4.3	4.0	3.8
③	協働の必要性	10	8.5	8.0	8.0	8.0
④	協働による相乗効果	10	8.0	8.5	7.5	7.0
⑤	協働の役割分担	5	3.8	3.8	4.3	3.8
⑥	事業の企画力及び広域性、他地域への波及効果	10	8.0	7.0	8.5	7.0
⑦	事業の実施能力	15	12.0	12.0	12.0	10.5
⑧	事業の計画性	15	11.3	12.0	11.3	12.0
⑨	事業の継続性、発展性	15	9.8	11.3	11.3	11.3
⑩	事業への熱意	10	8.5	9.0	9.5	9.0
合計点(点)		100	77.9	80.2	80.4	76.2
得点率(%)		100	77.9	80.2	80.4	76.2
審査結果		採択	採択	採択	採択	
審査会コメント		<p>出島表門橋公園の賑わい創出について、モデル的な事業の具体例を委ねていくことで、公園を利活用する市民を増やし、日常的な賑わいを作っていくというアイデアは、公共の空間を使うという意味で、面白い試みである。</p> <p>また、今回の事業をやってみようという熱意が感じられた。2次審査に向けては、次のことに整理していただきたい。</p> <p>○団体のネットワークにとどまらず、もう一歩広げて地域の人や企業の人など多くの人たちが企画づくりに参加できるよう、ゴールに向かってどういうふうに進めていくのか、どのプロセスでどのように人を巻き込んでいくのかという点に気を付けて計画を立てていただきたい。</p> <p>○許可が下りにくい原因や、対処法などについても考えを深めていただきたい。</p> <p>○事業の継続性については不安が残る。今後の展開についても計画をしっかりと立てていただきたい。</p>	<p>スクールセクハラを防止するための啓発活動を行う本事業は、大事な取り組みであり良い事業であると共感できる。</p> <p>2次審査に向けては、次のことに留意して担当課と調整を進めていただきたい。</p> <p>○団体しか持たない情報や、対応する手法、ノウハウ、オリジナリティといった、この団体でないといけなという特徴を打ち出していきたい。</p> <p>○プレゼンテーションでは、経験があるから出来るという説明であったが、ハンドブックや研修の内容、質の部分がわからなかった。どのような研修やどのようなハンドブックになるのか、スクールセクハラ防止啓発にどういった成果を目指すのか、具体的に示して欲しい。</p> <p>○実際に子ども達が感じた、傷ついたという本質に迫るような事例を紹介し、そうしてはいけなと深く感じられるものにしてほしい。そのためにも、多くの情報からポイントを押しえて選択し現場で活かされるものとなるよう留意してほしい。</p> <p>○スクールセクハラを減らしていくという観点に立つと、ハンドブックを作り、研修を行うことはスタートラインである。二年目以降の展開についても検討すること。</p>	<p>乳幼児期に絵本を読み聞かせるということの重要性は大変理解できる場所である。一方で、絵本の楽しさを親子で体験する身近な場所を増やし、乳幼児と保護者の居場所づくりの拡大を目指す事業として、1会場での実施では、効果的なゴールと見えない。</p> <p>2次審査に臨むにあたり次の点を要望したい。</p> <p>○乳幼児期に絵本を読み聞かせる事業の意義、特に乳幼児期から読み聞かせを始めることの重さ、価値があるということをもう少し強調してしっかり伝えてほしい。</p> <p>○56館全ての大小の図書館を身近な読み聞かせの場とできないかということを考え、団体に何が出来るのか、担当課は何が出来るのかを視点を事業で作ってほしい。ゴールをもう少し具体的に示していただきたい。</p> <p>○将来的なビジョンとして、ここまでやるべきだから、まずこの1年間をやってみようというような目標設定を行って、担当課と調整し、審査に臨んでいただきたい。</p>	<p>「びわ」でもオーナー制度が出来るかもしれないという点は関心があった。事業の継続性と発展性について、大事な地域の産物を救うという点において、大崎集落がモデルとなり大崎集落以外にも波及効果があるというようなことが、協働事業にとって大きな意義だと思うが、どうやって都市部の人と農村地区を繋いでいくのかといった広い視点が足りていないと感じた。</p> <p>2次審査へ向けは、次のことを整理していただきたい。</p> <p>○学童保育の子どもたちを対象にイベントを行うのは、何に繋がりたいからなのかという点を明確にしていきたい。</p> <p>○どういった人を呼び込みたいと想定しているのか、そこでびわを作る人が増えていくのか、どういった人を増やしたいのかがよく理解できなかった。ターゲットを明確にしていきたい。</p> <p>○事業年度が終わった時に、自走していくためのビジネスモデルや、オーナー制度の実現などの姿が見えるように整理して事業計画を組み立てて欲しい。</p>	